

日時： 2011年3月17日 09:56:55JST

件名： Epilepsy_Disaster_110317_09:56

関係各位

本メールは、東北大学病院てんかん科で把握した情報を、
てんかん学会東北地方会を中心とする医療関係者と、
日本てんかん学会の主要メンバーおよび、国内の主要な製薬会社の関係者など、
計206名にBccで配信します。
未曾有の災害時につき、大量配信の失礼をお許し下さい。

<緊急性>

- ・津波で抗てんかん薬が流され、てんかん重積で避難所から病院に救急搬送された患者さんが、すでに複数生じています。
- ・抗てんかん薬の処方日数が1週間程度に限られている、かかりつけ病院が外来診療を閉鎖している、などの理由で薬が足りないと電話で問い合わせしている患者さんもどんどん増えています。
- ・この状態が続くと、災害の直接被害の診療体制にも悪影響を及ぼす危険性が大です。

<処方せんなしでも抗てんかん薬がもらえます>

下記文書（厚労省からの通達）の4ページに記載されているように、災害時であることの「正当な理由」により、医師等からの処方せんの交付が困難な場合でも、患者に対し、必要な処方せん医薬品を販売又は授与することが可能、となっていますことを、患者・医師・薬局に周知願います（麻薬や抗精神薬の一部は不可）。

http://www.epilepsy.med.tohoku.ac.jp/download/110302_shoho.pdf

<災害地や周辺での薬剤の不足>

物流の障害等により災害地や周辺での薬剤の不足が生じています。厚労省の働きかけ、各製薬会社の提供、日本てんかん学会関連施設のボランティア活動によって、状況は徐々に改善されつつあるものの、ガソリン不足と高速道路等の使用制限が大きな障害となっています。

<薬の提供の申し出>

・多くの団体から、抗てんかん薬を含むお薬の提供が寄せられていますが、効果的に被災地に配分するには、時々刻々と変化している状況を、頻繁に交換しあう必要性があります。このメールもその主旨から発信するものです。現在の状況の一部をお知らせします。

・静岡てんかんセンター、西新潟てんかんセンターのボランティアが車二台で岩手県沿岸部を目指しています。現在、ガソリンが不足し北上山地を超えられずに待機中です。雪道が予想されるので、雪道運転の経験者や、装備（スタットレスタイヤや、チェーン）も重要です。また本日、国立精神神経センターを経由して、抗てんかん薬が仙台地区に本日、届けられる予定です。複数の会社からも抗てんかん薬の提供の申し出があります。

・被災地に薬を届けるには、直接、医療施設や薬局に持参する方法の他に、仙台医療センター（022-293-1111代表）や、東北大学病院に設置されている災害対策本部（022-717-3103, 3104, 3105）に相談するのが効果的です。こうした病院からは、毎日、沿岸地区に医師・看護師・薬剤師から構成されているバスによる医師義勇団が派遣されていますので、効果的に薬を持参することが可能です。また各医療機関からの薬のwish list も届いていることがありますので、是非、ご相談下さいませよう。

・東北大学医学部に物資を届ける場合には、東北大学東京分室（03-3218-9612）からの毎日の定期トラックが出ていますので、これに積み込むことも効果的です。

<抗てんかん薬以外の物資の供給>

・被災地で何が不足しているのか、は、上記の災害対策本部に問い合わせて下さい。現在私が把握しているところでは、ガソリン、食料、水、無洗米、毛布、などの他、薬品では、抗生物質、とのこと。骨折でも緑色にトリアージされてシェルターにいる方もおります。インフルエンザや食中毒などの集団的な感染症はまだ生じていませんが、時間の問題かもしれませんので、これに対する薬もいずれ必要になると予想されます。石巻日赤病院からは、インスリン、ワーファリン、降圧剤の緊急要請があり、昨日、搬入されました。他の病院でも同様の状態になっている可能性が大です。このあたりの事情も、時々刻々変化しますので、物資薬剤の供給の前に、災害対策本部に相談されることをおすすめします。

<本メールの今後の送付>

以上のメールに追加情報がありましたら、折り返しご返事下さい。

このメールの転送も必要に応じてご自由に行って結構です。

このメールの送信先は関東地方沿岸部はカバーしていませんので、

必要と思われる方のメールアドレスを頂戴できれば、今後は追加送信したいと存じます。

・・・頑張れ日本

中里信和

--

東北大学 大学院医学系研究科 運動機能再建学分野／教授

（注：運動機能再建学分野は、4月より、てんかん学分野に変更されます）